

3

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
14102004	宇宙初期における時空と物質の進化	佐藤 勝彦（東京大学・大学院理学系研究科・教授）	A

（意見等）

本研究課題は、宇宙論のインフレーション宇宙モデルを確立するために、弦理論を含めた微視的な素粒子論的アプローチからの理解を目指すものである。そして、この分野の最も重要な研究課題に対して、主に現象論的な研究手法を駆使し、目的の達成を図る。

研究活動は活発であり、順調に成果をあげている。しかし研究内容は、当初の目的からやや散漫な印象を受ける面もあることから、研究目的を再確認するとともに、研究代表者がメンバー間の相互連携を促し、研究を更に推進することを望む。

4

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
14102005	K 中間子深束縛核探索実験	岩崎 雅彦（(独)理化学研究所・ミュオン科学研究室・主任研究員）	A

（意見等）

本研究は（静止 K^- , n）反応を用いたケイ中間子・原子核束縛状態の探索研究である。研究は順調に進行し、 K^-ppn の深い束縛状態の可能性を示唆する結果が得られたことは意義深い。この結果は、超高密度核物質の生成の可能性もあり、ハドロン物理の新展開に大きく貢献することが期待される。

一方、KEK-PS のビーム取り出しの不具合などで十分なデータ収集ができなかった状況もあり、今後2005 年以降の延長実験が強く望まれる。また、バイアスの少ないバックグラウンド除去方法確立し、データ解析の更なる進展を期待する。